Miyazaki International College

Course Syllabus

|  |  |
| --- | --- |
| Course Title (Credits) | PSY316：教育心理学Educational Psychology (3 credits) |
| Course Designation for TC | 教員の免許状取得のための必修科目  【科目】  教育の基礎的理解に関する科目  【各科目に含める必要事項】  幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 |
| Content Teacher | |
| Instructor | 小林　太（単独） |
| E-mail address | fkobayas@sky.miyazaki-mic.ac.jp |
| Office/Ext | 1-410 |
| Office hours | 月・水曜日　9：00～10：00　＆　火曜日　14：00～15：00 |
| Language Teacher | |
| Instructor |  |
| E-mail address |  |
| Office/Ext |  |
| Office hours |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| Course Description: | | |
| 教育心理学は、学習と教授に関する応用心理学である。学習理論、学習評価、効果的な教授法などの学習や行動のマネージメントに関する分野を網羅する。また、教育心理学は生徒の発達、動機付け、クラスでの生徒の多様性、例外的な生徒のニーズについても包含する。  教育心理学の理論と実践法は、広く定義されており、学習環境以外にも応用されている。学校とは異なる分野の教育心理学には、子供と接する仕事や特別なニーズのある個人と接する仕事をしている人のための行動マネージメント、雇用者やマネージャーの指導法なども含まれている。この科目では、批判的思考力を用いることが求められる。  この授業で使用する言語は英語であり、英語で理解する時間を確保するため、通常より多くの時間を取っている。 | | |
| Course Objectives: | | |
| 【全体目標】  幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。  【一般目標】   1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程   幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。   1. 幼児、児童及び生徒の学習の過程   幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。  【到達目標】  (1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程  1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。  2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。  (2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程  1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。  2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。  3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。 | | |
| Course Schedule: | | |
| Day | Topic | Content/Activities |
| 1 | 当該科目案内 | シラバスを通じて当該科目の説明。当該科目のムードル（Moodle：オープンソースのeラーニングプラットフォーム）への各自登録。過去の履修学生が作製した教育ゲームの体験。 |
| 2 | 教育心理学について(pp.3-14) | 「良い教員の特徴とは」エクササイズ＆ディスカッション。教育心理学の定義等を学ぶ。（目標(1)-1),(2)-1)） |
| 3 | エリクソンの発達理論(pp.17-19) | エリクソンの発達理論における8つのステージの特徴等を学ぶ。（目標(1)-1)） |
| 4 | ピアジェの発達理論(pp.25-27)（1） | 感覚運動期、前操作期、具体的操作期までを学ぶ。（目標(1)-1)） |
| 5 | ピアジェの発達理論(pp.27-29)（2） | 形式的操作期を学ぶ。青年期の自己中心性(Adolescent Egocentrism)等を学ぶ。（目標(1)-1)） |
| 6 | ピアジェ理論に基づく学習プロセス(pp.23-24) | スキーマ(Schema)、同化（Assimilation）、調節（Accommodation）、均衡化(Equilibration)等を学ぶ。（目標(2)-1)） |
| 7 | ヴィゴツキー理論に基づく学習プロセス(pp.36-37) | 最近接発達領域（Zone of Proximal Development）、足場作り（Scaffolding）等を学ぶ。（目標(2)-1)） |
| 8 | 幼児（3-5歳）の特徴(pp.49-52) | 幼児（3-5歳）の運動、言語、認知発達を学ぶ。心の理論(Theory of Mind)を学ぶ。社会性の発達例として性別の遊び方の違い等を学ぶ。（目標(1)-2)） |
| 9 | 児童（6-8歳）の特徴(pp.53-55) | 児童（6-8歳）の運動、言語、認知、社会性の発達を学ぶ。ヴィゴツキー用語のプライベート・スピーチ(Private Speech)等を学ぶ。（目標(1)-2)） |
| 10 | 児童（9-10歳）の特徴(pp.55-58) | 児童（9-10歳）の運動、言語、認知、社会性の発達を学ぶ。（目標(1)-2)） |
| 11 | 生徒（11-13歳）の特徴(pp.58-65) | 生徒（11-13歳）の運動、言語、認知、社会性の発達を学ぶ。（目標(1)-2)） |
| 12 | 生徒（12-17歳）の特徴(pp.65-68) | 生徒（12-17歳）の運動、言語、認知、社会性の発達を学ぶ。（目標(1)-2)） |
| 13 | 第1回定期試験 | 第1回目から第12回目までの授業内容を試験。その後、ティーチング・デモンストレーション・アクティビティの説明。 |
| 14 | 知能(pp.71-76) | 知能テストの歴史と諸理論を学ぶ。（目標(2)-2)） |
| 15 | オペラント条件づけ(pp.148-154) | 正の強化(Positive Reinforcement)、負の強化(Negative Reinforcement)、正の弱化(Positive Punishment)、負の弱化(Negative Punishment)等を学ぶ。（目標(2)-1)） |
| 16 | 自閉症(p.128) 、注意欠陥・多動性障害（ADHD）(pp.136-137)、行動変容療法(Behavior Modification) (p.157) | オペラント条件づけの復習。自閉症の症状と対策学習（ビデオ＆ディスカッション）。注意欠陥・多動性障害（ADHD）の症状と対策学習（ビデオ＆ディスカッション）。行動変容療法（Behavior Modification）等を学ぶ。（目標(1)-2),(2)-1)） |
| 17 | 情報処理理論と記憶(pp.167-177) | 感覚記憶(Sensory Register)、短期記憶(Short-Term Memory)、長期記憶(Long-Term Memory)等を学ぶ。（目標(2)-2)） |
| 18 | 動機づけ(pp.237-252) | 動機づけ（Motivation）について、行動学派(Behaviorism)、認知学派(Cognitive Psychology)、人間性学派(Humanistic Psychology)の3つの視点から学ぶ。（目標(2)-2)） |
| 19 | 学級経営(Classroom Management)(pp.261-269) | 3つのタイプの子育てスタイルと教育現場の相似、問題行動対策等を学ぶ。（目標(2)-2)） |
| 20 | 教授法（1）(pp.281-300) | ブルームによる教育目標の分類体系（Bloom’s Taxonomy of Educational Objectives）そして教授法について行動学派(Behaviorism)、認知学派(Cognitive Psychology)、人間性学派(Humanistic Psychology)の3つの視点から学ぶ。（目標(2)-3)） |
| 21 | 教授法（2）(pp.300-305) | 協調学習（Cooperative Learning）を学ぶ。また教育心理学研究論文の例(Kobayashi,2013)の紹介。  ティーチング・デモンストレーション・プラン提出期限日(Teaching Demonstration Plan Due Date)。（目標(2)-3)） |
| 22 | 学習評価法(pp.307-324) | 多肢選択式テスト（Selected-Response Tests）、短答式テスト（Short-Answer Tests）、小論文テスト(Essay Tests)、パフォーマンステスト（Performance Tests）等を学ぶ。（目標(2)-2)） |
| 23 | 第2回定期試験 | 第14回目から第22回目までの授業内容を試験。その後、期末試験(教育的ゲームの審査)の説明。 |
| 24 | 教育実践（1） | ティーチング・デモンストレーション＆ディスカッション（教育スキル等の評価）(学生3名程度) （目標(2)-3)） |
| 25 | 教育実践（2） | ティーチング・デモンストレーション＆ディスカッション（質問スキル等の評価）(学生3名程度) （目標(2)-3)） |
| 26 | 教育実践（3） | ティーチング・デモンストレーション＆ディスカッション（生徒からの質問に回答するスキル等の評価）(学生3名程度) （目標(2)-3)） |
| 27 | 教育実践（4） | ティーチング・デモンストレーション＆ディスカッション（問題行動をしている生徒への対応スキル等の評価）(学生3名程度) （目標(2)-3)） |
| 28 | 教育実践（5） | ティーチング・デモンストレーション＆ディスカッション（制限時間厳守スキル等の評価）(学生3名程度) （目標(2)-3)） |
| 29 | 教育実践（6） | ティーチング・デモンストレーション＆ディスカッション（フィードバックとまとめ）(学生3名程度) （目標(2)-3)） |
| 30 | 教育的ゲームについて | 自分のグループが創作した「中高生が楽しんで英語を学ぶ」教育的ゲームを最終チェック。（目標(2)-3)） |
|  | 期末試験 | 教育的ゲームの審査。 |
| Required Materials: | | |
| テキスト：なし  ・Snowman, J., & McCown, R. (2013). ED PSYCH. Belmont, CA: Wadsworth, Cengage Learning. | | |
| Course Policies (Attendance, etc.): | | |
| 遅刻や早退は欠席0.5回とみなされる。6回以上の欠席があれば、自動的に履修辞退が決定される。  しかし遅刻、早退、欠席が発生してから一週間以内に担当教員に連絡があり、その正当性を証明する文書（例：病院の領収書等）が提出された場合は、それらの遅刻、早退、欠席はカウントされない。 | | |
| Class Preparation and Review: | | |
| （事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）  事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。なおCourse Scheduleの各回に記してあるページ番号は教科書の該当部分であり、学生は予習として読んでくることを要求される。  事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。 授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。 | | |
| Grades and Grading Standards: | | |
| 成績評価  ・定期試験（25％X2回）　50％  ・ティーチング・デモンストレーション　25％  ・期末試験（教育的ゲームの審査）　25％  成績評価基準  A: 90-100 points  B: 80-89 points  C: 70-79 points  D: 60-69 points  F: 60 points未満 | | |
| Methods of Feedback: | | |
| 各アクティビィティや試験終了後に出来るだけ早く答案等を返却し、授業時に答え合わせを行う。 | | |
| Diploma Policy Objectives: | | |
| 本講義は、国際教養学部のディプロマ・ポリシーに掲げる  １．クリティカル・シンキング（批判的・分析的思考法）をベースにした高度な思考（比較、分析、総合、評価）能力を身につけている。  ３．課題発見及び問題解決能力を身につけている。  を育成する科目として配置している。 | | |
| Notes: | | |
| このシラバスの内容は授業進度や天候状況（例：台風）等の様々な原因により変更される可能性がある。 | | |